

令和6年度第3回廃炉安全監視協議会 追加意見・質問

(福島県原子力安全対策課)

No.	質問者	資料番号 ページ	質問内容	東京電力の回答・確認結果
1-1	事務局	資料1 10ページ	「一旦立ち止まり」は作業を安全に進めるための重要な取組と考える。ただし、この運用を確実に行うためには、職制や発注者・受注者の別にかかわらず作業に関わる全ての人が判断もしくは提案できる運用とする必要があると考えられる。そのような運用となっているのか否か、また、そうである場合、当該運用を確実に行うためのルール作りや周知徹底等の方法の詳細を伺いたい。	テレスコ式装置による試験的取り出し作業においては、安全を最優先に一旦立ち止まることを作業前の事前検討会やTBM-KY時に作業員全員に周知している。本事案については、当社自身による確認を行い、計画通りに実施していることを確認できなかった場合に一旦立ち止まり、作業状況の確認を行うこととし、作業現場や遠隔操作室において確認を実施している。
1-2	事務局	第2回廃炉 安全監視協 議会議資料2 -3 7ページ	テレスコ式装置による試験的取り出し作業においては、東京電力自身の判断により一旦立ち止まる旨の回答であることを理解した。 ところで、前回の廃炉安全監視協議会に関する更問で恐縮であるが、資料2-3の7ページの「変化があった場合は必ず立ち止まること」のワンボイスについては、テレスコ式装置による試験的取り出し作業以外の作業を対象とし、職制や発注者・受注者の別にかかわらず作業に関わる全ての人が”一旦立ち止まる”ことを判断もしくは提案できる運用となっているのか否か、また、そうである場合、”一旦立ち止まる”ことを決定するためのルール作り等があれば、その方法の詳細を伺いたい。※周知徹底については、資料の記載のとおりと理解している。	”一旦立ち止まる”との声があった場合は、東京電力の判断を待たず、安全最優先で、現場で判断するよう、あらゆる機会を通じて、協力企業に伝えている。また、提案・判断をした作業員の声を尊重することも合わせて伝えている。
2	事務局	資料2 25ページ	過去の内部調査におけ空間線量率測定結果において、ペDESTAL外よりペDESTAL内の空間線量率が低い理由について、見解を伺いたい。	ペDESTAL内の線量率がそれほど高くない原因として、2号機では燃料デブリの多くが原子炉圧力容器内に存在しておりペDESTALに存在する量が少量である可能性や、燃料が溶融する過程で、揮発性の放射性物質が燃料から放散された可能性、原子炉内への継続的な注水等により壁面や床面に付着した放射性物質が洗い流されペDESTAL外に移動した可能性があることなどが考えられる。 いずれにせよ現段階では可能性であり、引き続き検討していく。
3	事務局	資料3	燃料デブリの分析結果を活用した、取り出し規模拡大機器の開発スケジュール及び燃料デブリ第一保管施設の設置スケジュールについて伺いたい。	段階的取り出し規模の拡大の際に使用する取り出し装置（以下、取出設備）及び燃料デブリ第一保管施設のスケジュールについては廃炉中長期実行プラン2024に示しており、現在、各設計・検討を進めているところ。

4	事務局	資料3	分析結果とりまとめに約1年かかるが、中長期ロードマップの廃炉完了時期を考えると、分析結果を待たずに、取り出し規模拡大機器等の概念検討を進めておく必要があると考えるが、貴社の考えを伺いたい。	取出し機器（取り出し装置）の設計・検討は進めているところ。燃料デブリの分析結果を含む試験的取り出しの知見は、必要に応じ各設計及び運用検討に反映することを計画している。
5	事務局	資料3	デブリ取り出し規模拡大に向けて、原子炉建屋周辺などで、事前の準備として進めていることはあるか。（不要機器・設備の撤去、線量低減、取り出し機器を設置する新たな建屋の建設準備等）	建屋内外で現場状況を確認し、取出設備および関連する設備の配置検討等の設計・検討を進めているところ。

(質問No.3 参考「廃炉中長期実行プラン2024」)

